

詩篇92篇

0 賛歌。安息日のための歌

《弦楽器を伴う賛美》

- 1 【主】に感謝するのは、良いことです。いと高き方よ。あなたの御名にほめ歌を歌うことは。
- 2 朝に、あなたの恵みを、夜ごとに、あなたの真実を言い表すことは。
- 3 十弦の琴や六弦の琴、それに立琴によるたえなる調べに合わせて。
- 4 【主】よ。あなたは、あなたのなさったことで、私を喜ばせてくださいましたから、私は、あなたの御手のわざを、喜び歌います。
- 5 【主】よ。あなたのみわざはなんと大きいことでしょう。あなたの御計らいは、いとも深いのです。

《悪しき者の末路》

- 6 まぬけ者は知らず、愚か者にはこれがわかりません。
- 7 悪者どもが青草のようにもえいでようと、不法を行う者どもがみな栄えようと、それは彼らが永遠に滅ぼされるためです。
- 8 しかし【主】よ。あなたはとこしえに、いと高き所におられます。
- 9 おお、【主】よ。今、あなたの敵が、今、あなたの敵が滅びます。不法を行う者どもがみな、散らされるのです。
- 10 しかし、あなたは私の角を野牛の角のように高く上げ、私に新しい油をそそがれました。
- 11 私の目は私を待ち伏せている者どもを見下し、私の耳は私に立ち向かう悪人どもの悲鳴を聞きます。

《正しい者の繁栄》

- 12 正しい者は、なつめやしの木のように栄え、レバノンの杉のように育ちます。
- 13 彼らは、【主】の家に植えられ、私たちの神の大庭で栄えます。
- 14 彼らは年老いてもなお、実を実らせ、みずみずしく、おい茂っていきましょう。
- 15 こうして彼らは、【主】の正しいことを告げましょう。主は、わが岩。主には不正がありません。

ここ数回の学びにおいて、詩篇90～92篇の三つの詩を「三部作」として捉えてまいりました。今日はその三つ目となります。

90篇……空しき人生の直中におられる神	〔捕囚中期〕
91篇……危険から守ってくださる神	〔捕囚末期〕
92篇……礼拝において神に仕える喜び	〔帰還後〕

この流れの上で本篇を読みますと、タイトルにある「賛歌。安息日のための歌」という言葉の中に、長年苦しんできた捕囚から解放されて祖国に戻った人々が再び安息日に神殿に集って礼拝をささげられるようになった喜びを感じることができるでしょう。

3節には様々な弦楽器が登場します。「十弦の琴」(אֶשְׁכּוֹל／アショール／「十」)、「六弦の琴」(נֶבֶל／ネベル／「リュート」)、「立琴」(כִּנּוֹר／ケノール／「ハープ」)。かつてのダビデ王がハープの名手だったことは周知の事実です。彼が遺した楽器が更に改良され、その後も礼拝用の楽器として用いられていったのでしょう。ちなみに、聖書で最初に出てくる立琴奏者はユバル(創世4:21)ですが、元々は「立琴や笛」といった楽器は世俗の音楽のために作られたようです。しかし、それらが礼拝のために聖別されるようになったと考えられます。賛美における楽器の役割は、旋律、和声、テンポを明示し、歌う者を輔^{たす}け、思いを神に向けられるように導くことにあるでしょう。本篇もまた、音楽に合わせて歌われたはずです。

「主に感謝するのは、良いこと」(1節)という表現は、誰かに向かって「感謝せよ」と命じているのではなく、詩人自身が「ああ、この状況、この気持ちは何とすばらしいものなのか…」と感嘆している心を表しているでしょう。聖徒が共に集まり、大きな声で賛美をしている。そこで御言葉が語られている。その喜びを深く味わっているのです。

「朝に恵みを言い表す」「夜に真実を言い表す」(2節)という表現が出てきます。朝、夜という時間帯は、仕事から離れ、家族と共に過ごす時です。主の御前に静まり、祈り、私たちに良くしてくださることを信じて告白する。そのような家庭礼拝の祝福が思い描かれているようです。

「あなたのなさったこと」「あなたの御手のわざ」(4節)、「あなたのみわざ」「あなたの御計らい」(5節)という一つひとつの表現は、イスラエルを苦難の中から救い出してくださった主の御業を述べているでしょう。文脈的に、バビロン捕囚からの解放を暗示していると思われます。

6～11節には、民を苦しめてきた者への神の取り扱いが描かれています。敵対者についての表現がいろいろと出てきます。「まぬけ者」「愚か者」(6節)、「悪者ども」(7節)「不法を行う者ども」(7節、9節)、「あなたの敵」(9節)、「私を待ち伏せている者ども」「私に立ち向かう悪人ども」(11節)という諸々の表現から、彼らが神の救いの御業が起こることを信じずに悪巧みを継続したと言おうとしていることが読み取れるでしょう。いつの世にあっても、力ある者が驕り高ぶり、悪い計画を立て、弱者の生活を脅かします。富む者には更に富が集まり、貧しい者は更に貧しくなる。そんな時代が永久に続くかという、そうではないと聖書は語るのです。神が正しく裁かれる日が必ず来ると。

8節には「しかし主よ。あなたはとこしえに、いと高き所におられます」、10節には「しかし、あなたは私の角を野牛の角のように高く上げ、私に新しい油をそそがれました」というフレーズが投げ込まれ、悪が蔓延^{はびこ}る世にあっても神は信じる者に配慮をなさるというイメージがもたらされています。「角」は「力」を、「新しい油」は「喜び」を表します。

12節に登場する「正しい者」とは、神の恵みと真実に依り頼む者、自らの義に恃^{たの}まない人のことです。倫理的な意味では多くの欠けがある人間でありながら、そのような者をもお救いくださる神の恵みの大きさに頼る人は義とされます。

「なつめやし」はまっすぐ天に向かって伸びる木であることから、「優美さ」「正しさ」に譬えられることがあります（エゼキエル 41:20）。また、「レバノン」も高さ 40 メートルにも生長する杉であるところから、「長寿」「威厳」を表すと言われています。これらの木は、捕囚から帰還した民の代名詞となりました（エゼキエル 17:22-24）。よって、「主の家に植えられ」「神の大庭で栄える」（13 節）という表現は、民が再び神の許で豊かに養われ成長していくことを表しているでしょう。「彼らは年老いてもなお、実を実らせ、みずみずしく、おい茂っていきましょう」（14 節）という生き活きとしたフレーズから思い起こすのは、いのちの水を飲むキリスト者に向けられた聖句です。

- ・ その日、ダビデの家とエルサレムの住民のために、罪と汚れをきよめる一つの泉が開かれる。
(ゼカリヤ 13:1)
- ・ その日には、エルサレムから湧き水が流れ出て、その半分は東の海に、他の半分は西の海に流れ、夏にも冬にも、それは流れる。（ゼカリヤ 14:8）
- ・ しかし、わたしが与える水を飲む者はだれでも、決して渴くことはありません。わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠のいのちへの水がわき出ます。（ヨハネ 4:14）
- ・ たとい私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。（Ⅱコリント 4:16）
- ・ なぜなら、御座の正面におられる小羊が、彼らの牧者となり、いのちの水の泉に導いてくださるからです。また、神は彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってくださるのです。（黙示録 7:17／21:6、22:1-2, 17）

キリスト者は、終末的な「いのちの水」の源は主イエスであると信じています。この方からは常に「正しさ」（15 節）が湧き出ており、すべてにおいて「不正がありません」（15 節）。私たちが信じている方がどこまでも信頼できる存在であることを、今日も心に留めたいと思います。